入学早々に「国際化」の洗礼

商学部が新入生歓迎講演会

四月五日、8305号教室で、中大の元交換留学生で現在、フランスのソシエテ・ジェネラル証券会社東京支店支配人、ギィ・ダルブランさん＝**写真**＝を招き商学部新入生講演会が開かれた。演題が「世界に羽ばたけ新入生――国際化社会で活躍するあなたに」だけに、会場はフレッシュな聴衆であふれた。

ギィ・ダルブランさんは一九六四年、フランス・パリ生まれ。同八七年に、パリ高等商科大学からの交換留学生として一年間、中大で学んだ経験を持つ人物だ。パリ高等商科大を卒業後、フランス最大の金融機関である現在の会社に入社。現在も世界中をかけ巡るビジネスマンだ。そんなダルブランさんは経験をまじえつつ、「来日する十数年前まで〝日本〟の存在すら知らなかった」と当時を振り返ることとは裏腹に、中大で学んだ流暢な日本語で話は進んだ。

「国際化とは何ですか？」。「国際化」という言葉を新入生に問いかけるところから、講演は始まった。シーンと静まり返る会場に向け、ダルブランさんはこう切り出した。「〝国際化〟という概念を定義づけることは難しい。というより、この言葉の発想自体が国際的でない」「日本人が世界に求められていることは、日本が世界に合わせる、ということより、もっと世界、外国人を理解し尊重する、そういった基本的なことだ。その大前提としては自国の文化、歴史を知るべきである。日本人の中でも特に若くて柔軟性ある君たちに、いま一番必要なことだ。他の国や人の多様性を理解し尊重していくための努力をすべきだ」と指摘した。

中大に留学経験ある
仏証券会社の
東京支店支配人

ダルブランさんの話はさらに続く。「他国の文化、歴史の理解と、お互いを認め合う世の中をつくるには、いろいろなことを考え、知り、聞く。すなわち、知恵を得ることが必要だ」

「そして、それと同時に、いろいろな分野の考え方・価値観をも知ることが大切。ゼネラリストであってほしい。若いうちにいろいろな方面から影響を受けて自分の〝個性〟を育て、強くする。大学生活をこうした場として活かしてほしい。今は個性、人間性をつくる絶好のチャンスですよ」と締めくくった。

講演後、質疑応答が行われた。「自動車業界における日産とルノー（仏）の資本提携をどう捉えるべきか」「EUにおけるフランスの立場をどう考えるか」など、主にダルブランさんの専門分野を中心に、積極的に展開された。また、「ソシエテ・ジェネラル証券はルノーのメーンバンク。答えられないなあ（笑い）」と、ユーモアとジェスチャーをまじえつつ、しかし、真剣に応答していたのが印象的だった。

講演後、ダルブランさんはインタビューに応じてくれた。「きょうは質問が多かったね。私が中大にいた十数年前と違って、積極性、感じたよ。うれしいことだ」「十数年前まであった〝外国人〟という特別な視線が感じられなかった。いろいろな面で〝融通〟がきいている。こうした流れを大切にしてほしいね」「融通性と寛容性、こうしたものを、中大生は大切にしてほしい」などと語ってくれた。

「国際人としての日本人・中大生に求められる資質」を中心に行われた講演会。新入生は何をつかみとったろうか。

（学生記者・初鹿　真一）